

【地域連携活動報告】

「鶴っ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業」

——大学生の学習指導補助体験談——

足立拓哉*・上田一斗**・請地貴史***・渡辺沙織****

キーワード：鶴っ子サマースクール、鶴っ子土曜塾、鶴ヶ島市、WIN-WIN、TJUP

1. 鶴っ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業とは

「鶴っ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業」は、児童生徒の夏休み期間を利用して児童・生徒が自主的に学ぶ機会を提供し、学習習慣の定着を図ることを目的とした、鶴ヶ島市と埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）会員校を含む地域の大学・短期大学とが連携した事業です。児童・生徒の学習をサポートする先生（学習指導補助員）は、大学生が務めました。

この事業が実施されるにあたっては、2020（令和2）年度の新型コロナウイルス感染症の第一波の頃に遡ります。当時、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で鶴ヶ島市では2020年3月2日から5月31日の約3ヶ月間休校を余儀なくされ、学習に不安を抱える児童生徒、保護者が多くいました。そこで、鶴ヶ島市教育委員会が「鶴っ子土曜塾×大学生WIN-WIN事業」と銘打ち、地域の大学・短期大学の学生を「学習支援補助員」として採用し、毎週土曜日に鶴ヶ島市内の小・中学校で、自習の際の疑問点を解消するためのサポートをしました。児童生徒やその保護者にとっては、学習不安の解消、大学生にとっては、コロナ禍で減少したアルバイトや収入の助けとなりました。特に教職課程を履修している学生にとっては多く中止されていた教育実習に代わる現場経験となり、まさに双方にとってWIN-WINな事業でした。この成果をもとに、2022（令和4）年度「鶴っ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業」が実施されました。

今回は、「サマースクール」ということで、夏休みの宿題、ドリル、ワーク、自主学習ノートなどの課題を児童生徒が自ら選んで、自分の通う小・中学校で学習に取り組みました。大学生の「学習指導補助員」は、分からないところやつまずいているところについてアドバイスをしたり、取り組み状況のチェックや採点作業をしたりしました。



図 1.1 鶴っ子サマースクール 大学生募集ポスター

* 城西大学経営学部 4 年生
 ** 城西大学経済学部 4 年生
 *** 城西大学現代政策学部 3 年生
 **** 城西大学・城西短期大学地域連携センター事務室職員

今回、この「鶴っ子サマースクール×大学生 WIN-WIN 事業」に参加した 3 名の城西生の方々に、体験談を寄稿していただきました。

2. 令和 4（2022）年度の実施概要

日程 大学生学習支援補助員研修日 2022年 7月25日（月）
第一クール 7月26日（火）～29日（金）
第二クール 8月22日（月）～26日（金） 合計10日間
時間 小学校 8時30分～12時30分
中学校 12時30分～16時30分
場所 鶴ヶ島市内の小・中学校（小学校 8校、中学校 5校）

3. 参加学生の体験談

3.1 経済学部経済学科 4年 上田一斗さん（新町小学校、西中学校で指導）

鶴っ子サマースクールに参加したきっかけは、教職課程を履修しており学校からの案内で児童・生徒に確かな学力を身につけさせたいの自分自身の勉強にもなると思い参加を決めた。鶴っ子サマースクールでは、午前中に小学校、午後に中学校に行った。それぞれの校種で課題はたくさんあった。

小学校では、席に座って集中して学習に取り組む児童が少なかった為児童にどのようにして集中させて学習に取り組めるかが難しかった。また、我々は騒がしい児童に目を向けることに重点を置いてしまったため静かな児童にあまり指導ができなかったのも課題である。高学年になるに連れて、落ち着いて学習をすることができる児童が多かったため指導をすることができた。

中学校では、主に 1年生を担当した。夏休みの宿題に取り組む生徒、塾の夏期講習の課題に取り組む生徒さまざまであった。中学生は静かに学習をすることができたが、小学生とは違い分からない所を自分から聞くことができない生徒が多かったため積極的に声をかけ指導を行った。課題点としては、中学校の学習内容になると難しい問題もあったため教えることができないのもあった。今後のサマースクールでは、文系専門の大学生と理系専門の大学生をペアにして指導を行った方がより深い学習につながると思った。

今回の鶴っ子サマースクールでは、様々なことを学習することができた。例えば、難しい内容を易しく言い換えの工夫を行う、児童・生徒たちとの関わりのなかでコミュニケーションの重要性を学習した。次年度以降も夏季休業期間を利用して子どもたちの学習機会に携わりたいと思う。

3.2 現代政策学部社会経済システム学科 3年 請地貴史さん（新町小学校で指導）

まず、鶴っ子サマースクールを知ったきっかけとして広報誌から知りました。自分は市のボランティアには参加したいという気持ちがありましたが、なかなか都合が合わず参加することができずにいました。そこで今回鶴っ子サマースクールを見つけ、実施期間も夏休み、また自分がアルバイトで仕事している学童保育の経験を活かすことができると考え、絶好の機会だと思い参加に至りました。

自分は、第二クールからの参加で鶴ヶ島市立新町小学校に配属されました。母校ではないのですが、スポーツ少年団で知っている学校だったので、母校のような懐かしさを感じ少し感極まりましたが、子供たちに教える立場だと気持ちを切り替えて臨みました。

サマースクールの自分と同じボランティア指導員ですが、ほとんどが教職を目指している方と聞いて少し肩身が狭かったのですが、子供たちとの接し方、諭し方など多くのことを学ぶ機会になりました。また、みなさん優しく仕事しやすい環境でした。

生徒の雰囲気ですが、自分は2、4、6年の偶数年生の担当を持ちました。4、6年生はさすが高学年だなと思うおとなしさでしたが、対照的に2年生は教室を走り回ったり、おしゃべりしてしまったり、やる気がなかったりととにかく勉強をスタートさせるところからだったため大変でした。そのため色々工夫をして喋る子は机を離したり、教室を走ってはいけない理由をわかるようにしっかり説明したり、やる気のない子にはなるべくついてやる気を出してもらうように動きました。また、メモや電子辞書を用いてわかりやすく教えられるよう工夫しました。

自分はとにかくどうやったら子供達が楽しく勉強ができるかを考えてこのボランティアで臨みました。何もやることがない子には問題を作ったり、周囲を見て手が止まっていたり悩んでいた子がいたらなるべくついてあげて解けるように教えるよう頑張りました。しかし、自分にはその楽しさを教えるための能力が足りなかったと思いました。というのも、文章問題など自分ではわかっているもののレベルを下げて話すというのがうまくできなかつたり、そもそもの能力が違うため、自分の視点で説明してしまい、子供にもわかる様な説明ができなかった点が挙げられます。しかし、勉強を見ていた子にはあだ名で呼ばれて、子供たちには慕われていたのかな？と個人的には感じています。

今後の展望としてはまた都合が合えば反省を活かして参加したいと考えています。というのも子供の様子を見るのは面白く、学ぶべきものもあると思うからです。ただ来年は、就職活動や卒業論文で忙しいため参加できるかわかりませんが、機会があれば参加したいと考えています。

3.3 経営学部マネジメント総合学科4年 足立拓哉さん（南小学校で指導）

私が「鶴っ子サマースクール」に参加しようと思った理由は、夏休みに子供と関わる仕事をしたいと考え応募しました。もともと私は、子供と関わるのが好きでアルバイトで塾講師や子供たちを山や川に連れて行って生活をする野外体験のリーダーなどを数々行ってきました。教育実習を終えて、教育に対する思いが一層強くなり、夏休みにできるアルバイトを探したところ「鶴っ子サマースクール」を見つけました。時給1,300円と高かったことも選んだ理由の一つです。時給が高い理由は、働く人がしっかり子供と向き合う意識づけをするためであると面接の時に説明を受けました。そのため、実際に働いている時間は、子供たちと積極的に関わることを意識するようになりました。

初日、子供たちはいつも通っている小学校の中に知らない先生がいるということで警戒している生徒がいました。しかし、私たちが積極的に声をかけることによって、2日目からはわからない問題があると手を挙げて質問をする生徒が増えました。それでもなかなか質問ができない生徒がいます。そこで私は、手が止まっている生徒や集中が切れている生徒に声をかけることで質問しやすい環境づくりを心掛けました。

私は、これまで教職や教育実習で培った知識を活用して指導をすることで一緒に働く仲間にも良い

影響を与えることができました。仲間から子供との接し方や指導時の工夫を学ぶことができました。

「鶴っ子サマースクール」は、教職に就きたいと考えている人はぜひ参加することをお勧めします。我が校は中学校と高等学校の教員免許を取得することができますが、小学校の児童と関わる機会はありません。幅広い生徒を指導することで指導の幅が広がります。

今後の展望として、参加した子供たちが参加したことによって、勉強が楽しくなった、もっと学んでみたいと思ってもらえる子どもが増えること、そして、「鶴っ子サマースクール」に参加した学生が、成長できたと感じることを望んでいます。

謝辞

「鶴っ子サマースクール×大学生 WIN-WIN 事業」の実施に際し、鶴ヶ島市教育委員会学校教育課の皆様や鶴ヶ島市内各小中学校の職員の皆様に大変お世話になりました。大学生にとって大変貴重な経験を積むことができる機会をご提供いただき、ここに深謝申し上げます。また、本紀要への投稿に際し、鶴ヶ島市教育委員会学校教育課の皆様に執筆内容のご確認、ご助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 鶴ヶ島市 (2022) 『「TJUP 教育連携市民フォーラム 2022～鶴ヶ島市 WIN-WIN 事業【鶴っ子サマースクール】による小学校・中学校と大学双方の教育的効果について～」を開催しました』
(<https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/page009456.html>) (2023年 1月16日)